

# 2023年 3月期 第2四半期 決算説明会

---

2022年11月9日  
八千代工業株式会社

## ■ 決算説明

経理部長

初山 武志

## ■ 自己紹介

## ■ 事業の方向性

代表取締役社長

可知 浩幸

## ■ 決算説明

経理部長

初山 武志

## ■ 自己紹介

## ■ 事業の方向性

代表取締役社長

可知 浩幸

- 2023年3月期 第2四半期 連結決算
- 2023年3月期 連結業績見通し

- 2023年3月期 第2四半期 連結決算
- 2023年3月期 連結業績見通し

	2022年3月期 第2四半期実績	2023年3月期 第2四半期実績	前年同期比 (増減率)
売上収益	746億円	908億円	+163億円 (+21.8%)
営業利益 (対売上収益比率)	39.3億円 (5.3%)	51.4億円 (5.7%)	+12.1億円 (+30.9%)
税引前四半期利益 (対売上収益比率)	39.7億円 (5.3%)	76.4億円 (8.4%)	+36.6億円 (+92.2%)
四半期利益 (対売上収益比率)	21.5億円 (2.9%)	48.9億円 (5.4%)	+27.4億円 (+127.6%)
親会社の所有者に 帰属する四半期利益 (対売上収益比率)	16.4億円 (2.2%)	42.4億円 (4.7%)	+26.1億円 (+159.2%)
為替レート (USドル)	110円	134円	24円 円安

# 2023年3月期 第2四半期(6ヶ月間) 燃料タンク概況

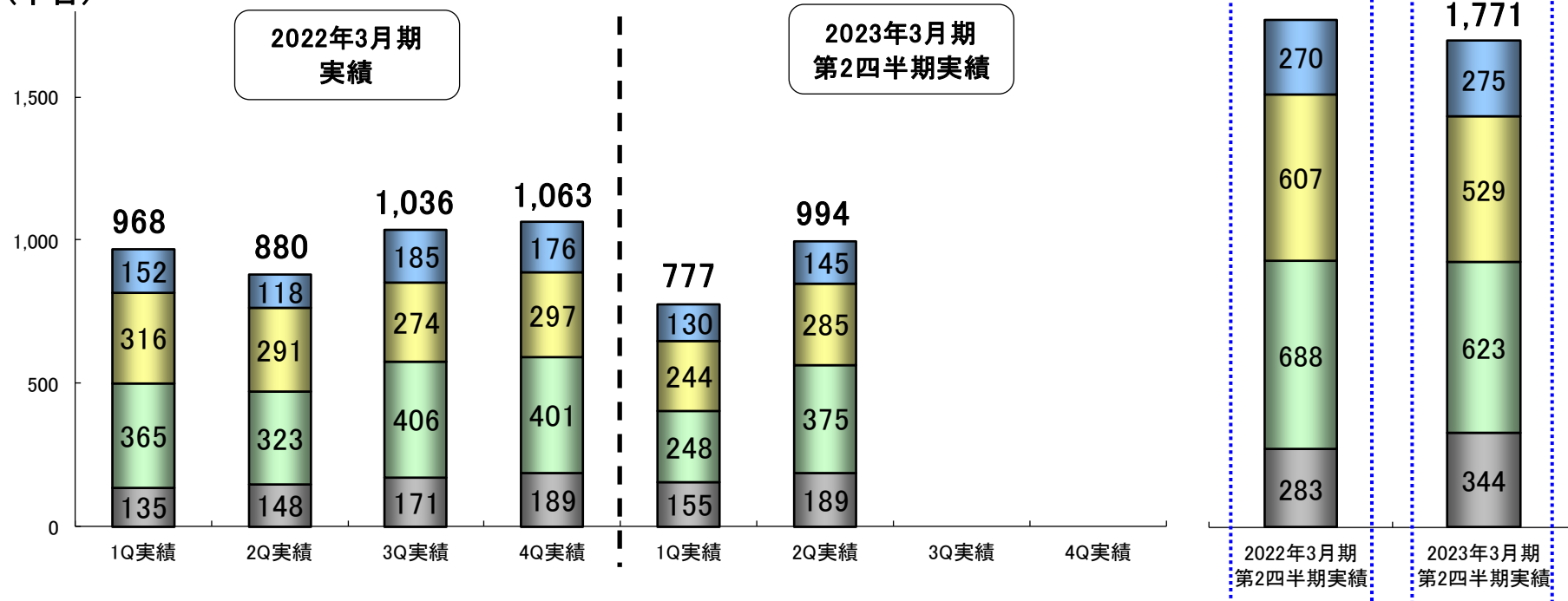
	2022年3月期 第2四半期実績	2023年3月期 第2四半期実績	前年同期比 (増減率)
出荷台数合計	1,848千台	1,771千台	-77千台 (-4.1%)
日本	270千台	275千台	+5千台 (+2.0%)
米州	607千台	529千台	-78千台 (-13.0%)
中国	688千台	623千台	-65千台 (-9.4%)
アジア	283千台	344千台	+61千台 (+21.8%)
売上収益	196億円	228億円	+31億円 (+16.0%)
内、為替影響	-	+34億円	-3億円 (-1.4%)

← 実質的な売上減

-77千台  
(-4.1%)

■日本 ■米州 ■中国 ■アジア

(千台)

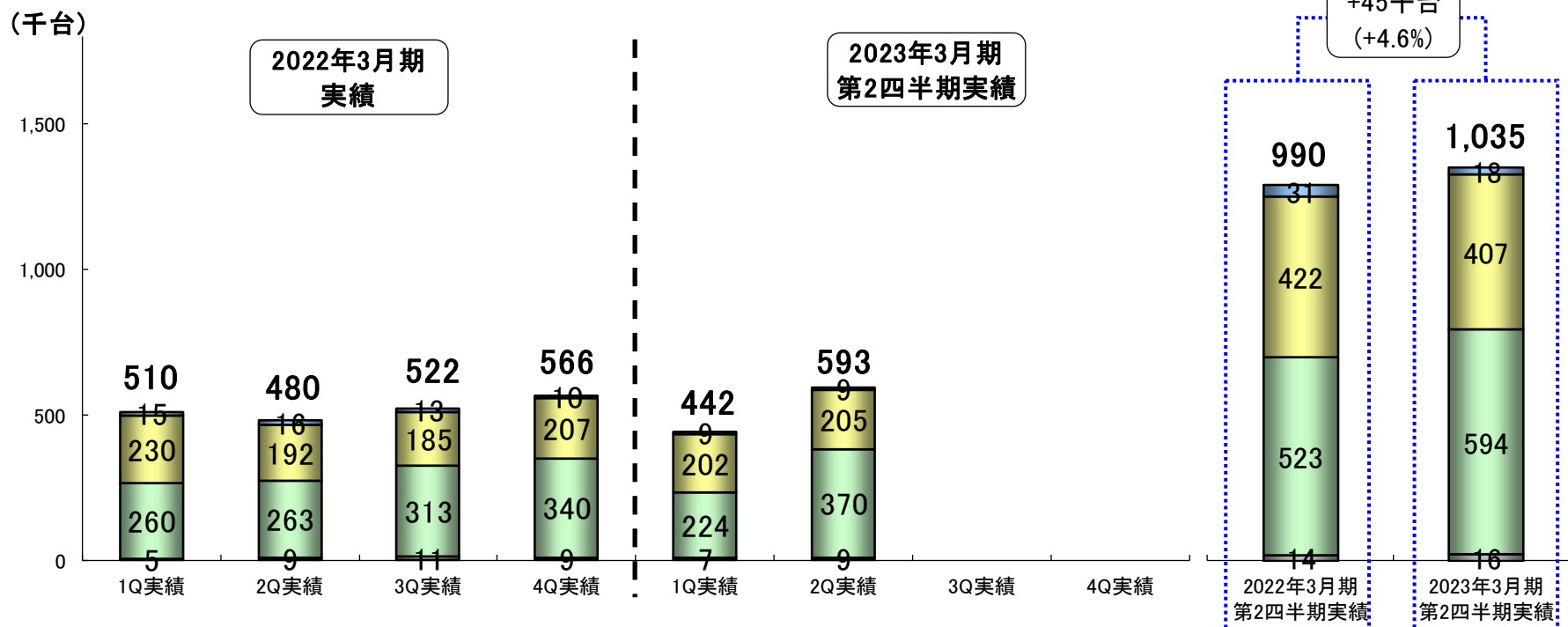


# 2023年3月期 第2四半期(6ヶ月間) サンプル概況

	2022年3月期 第2四半期実績	2023年3月期 第2四半期実績	前年同期比 (増減率)
出荷台数合計	990千台	1,035千台	+45千台 (+4.6%)
日本	31千台	18千台	-13千台 (-41.8%)
米州	422千台	407千台	-15千台 (-3.6%)
中国	523千台	594千台	+71千台 (+13.6%)
アジア	14千台	16千台	+2千台 (+14.2%)
売上収益	209億円	276億円	+67億円 (+32.2%)
内、為替影響	-	+43億円	+24億円 (+11.6%)

← 実質的な売上増

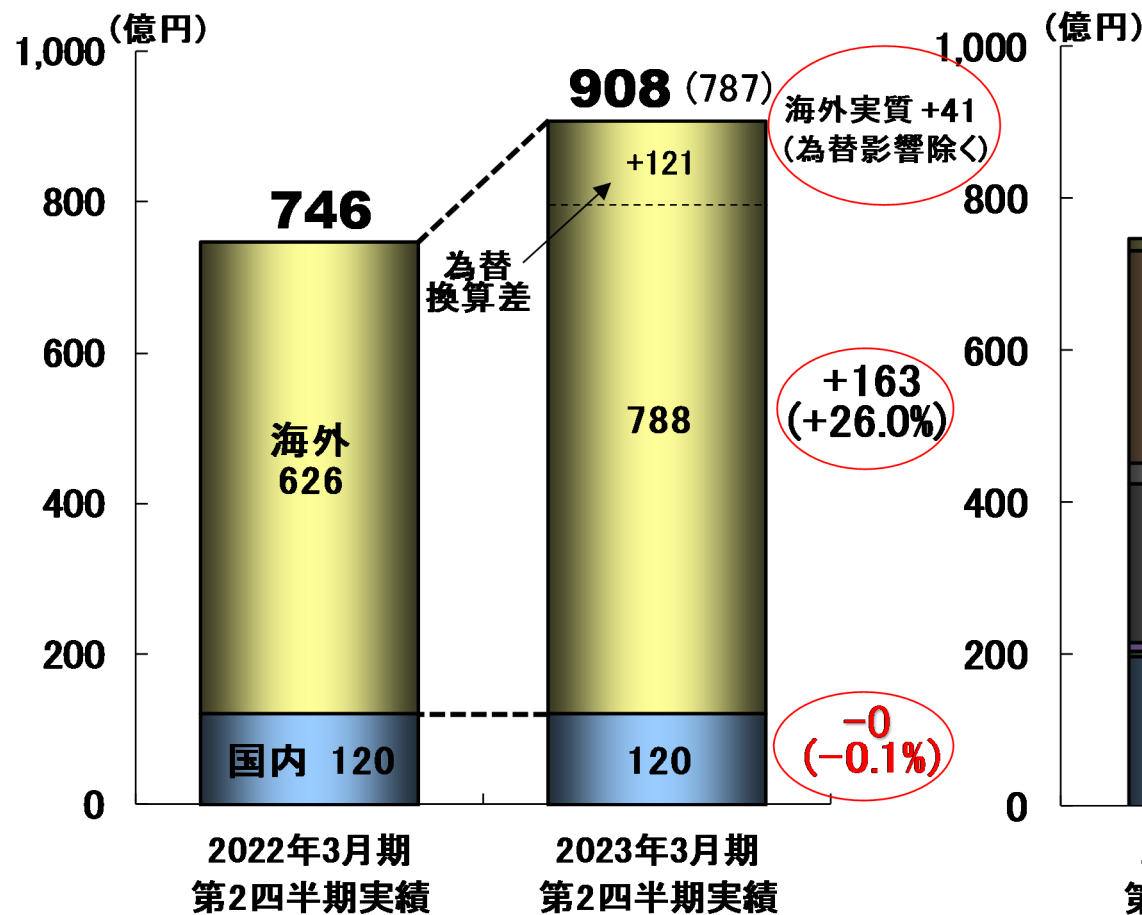
■日本 ■米州 ■中国 ■アジア



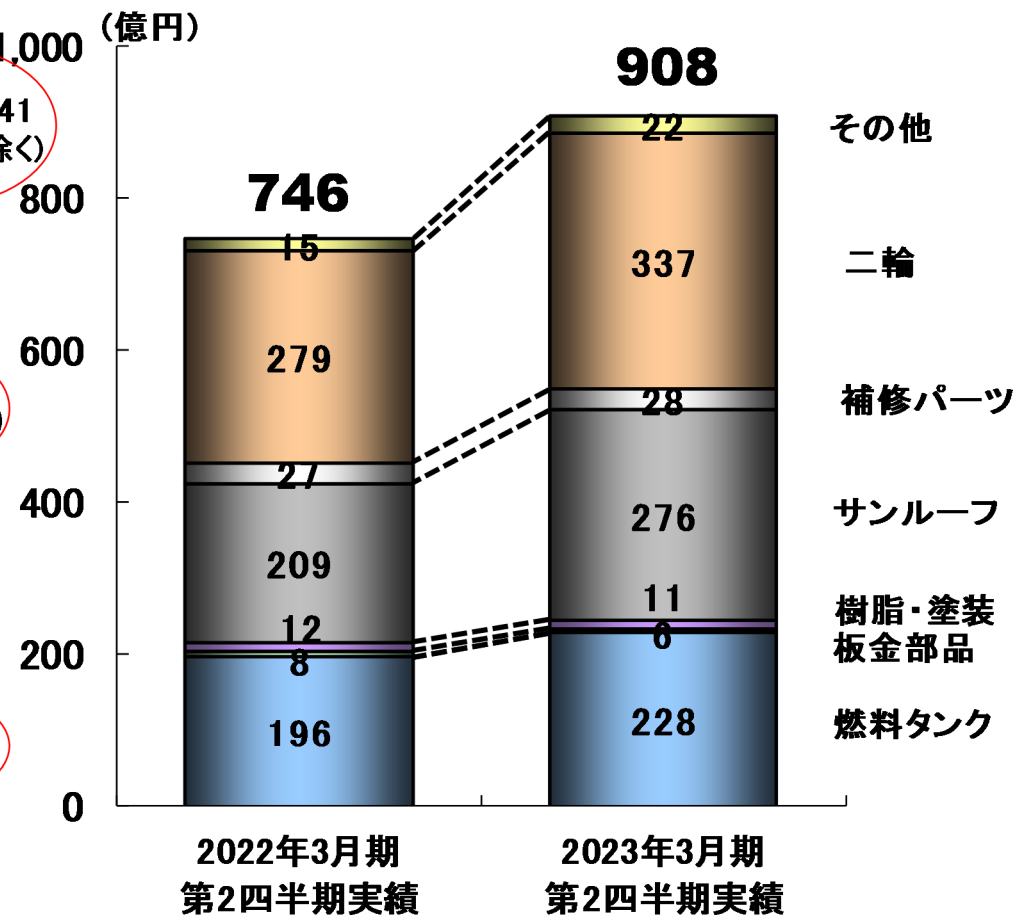


	2022年3月期 第2四半期実績	2023年3月期 第2四半期実績	前年同期比 (増減率)
売上収益	746億円	908億円	+163億円 (+21.8%)

## 国内／海外区分

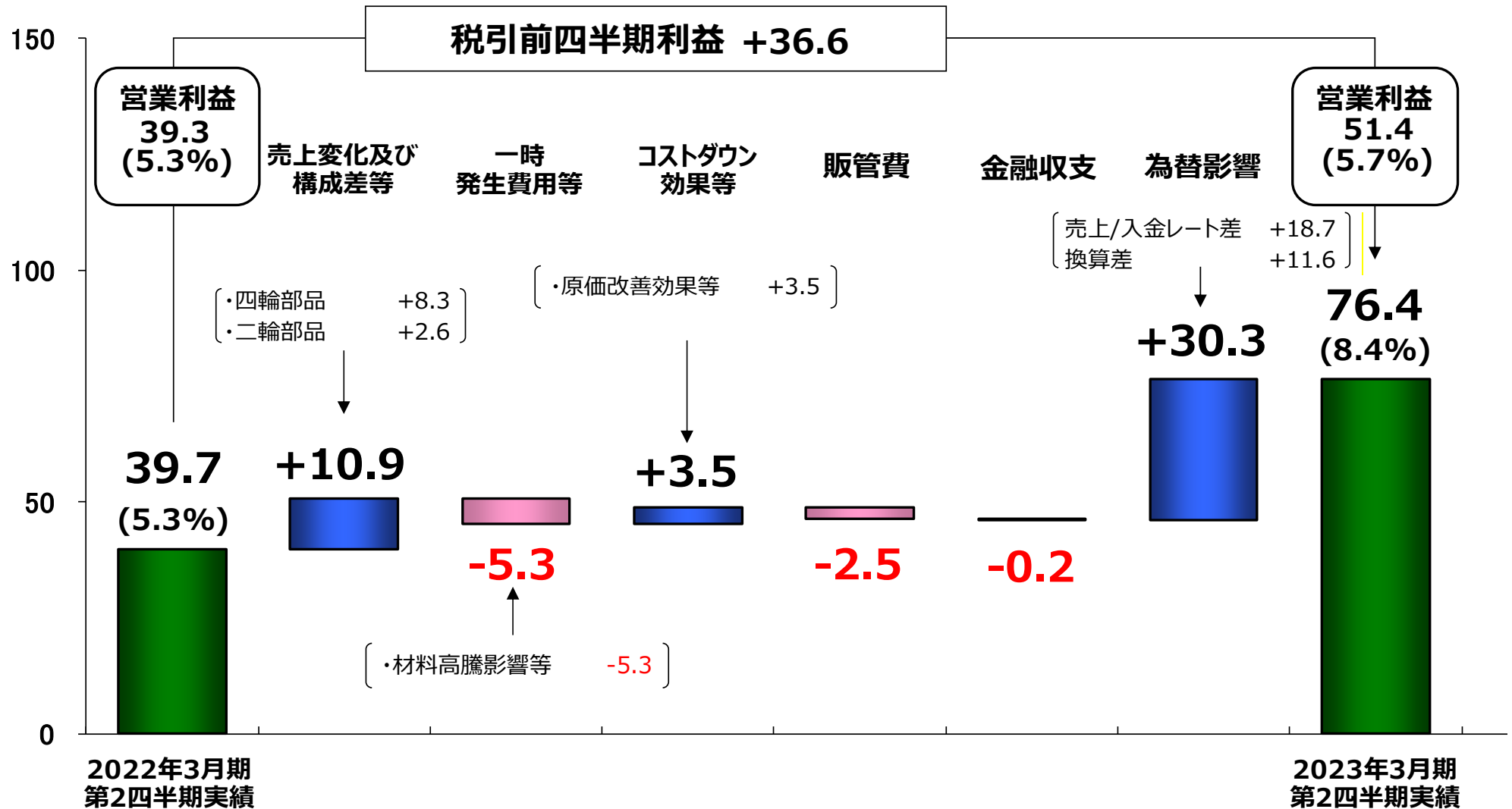


## 製品別区分



(単位：億円)

売上収益 746 増減 +41 為替換算影響 +121 908



(単位：億円)

## 【日本】

<b>売上収益</b>	<b>-0</b>
・四輪部品売上増	+2
・二輪部品売上減	-2
<b>税引前四半期利益</b>	<b>+3</b>
・売上変化及び機種構成差	-0.6
・CD効果等	+2.0
・材料高騰影響等	-0.9
・販管費増減	-3.1
・金融収支	+0.1
・為替影響	+5.5

## 【米州】

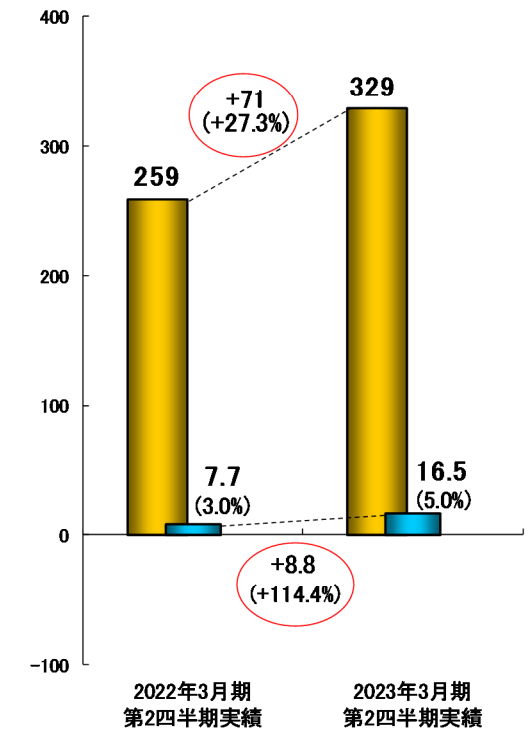
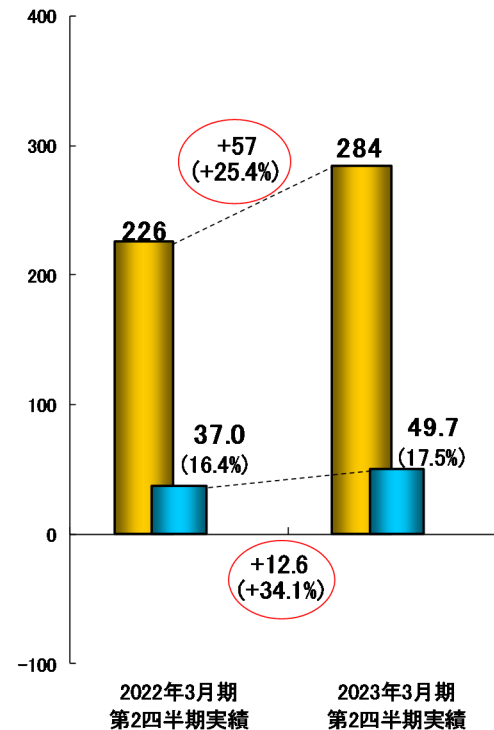
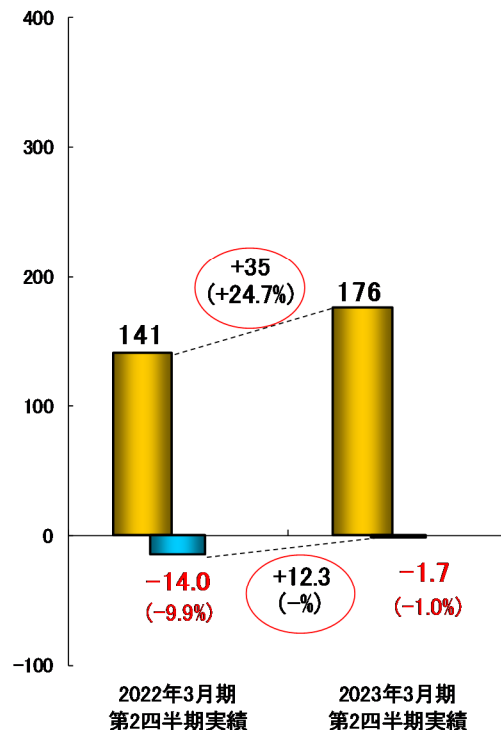
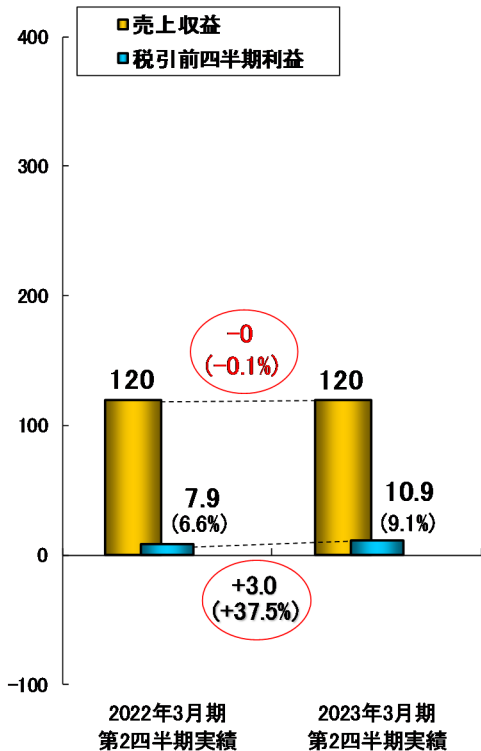
<b>売上収益</b>	<b>+35</b>
・四輪部品売上増	+1
・為替影響	+34
<b>税引前四半期利益</b>	<b>+12.3</b>
・売上変化及び機種構成差	+0.5
・材料高騰影響等	-0.9
・金融収支	-0.1
・為替影響	+12.8

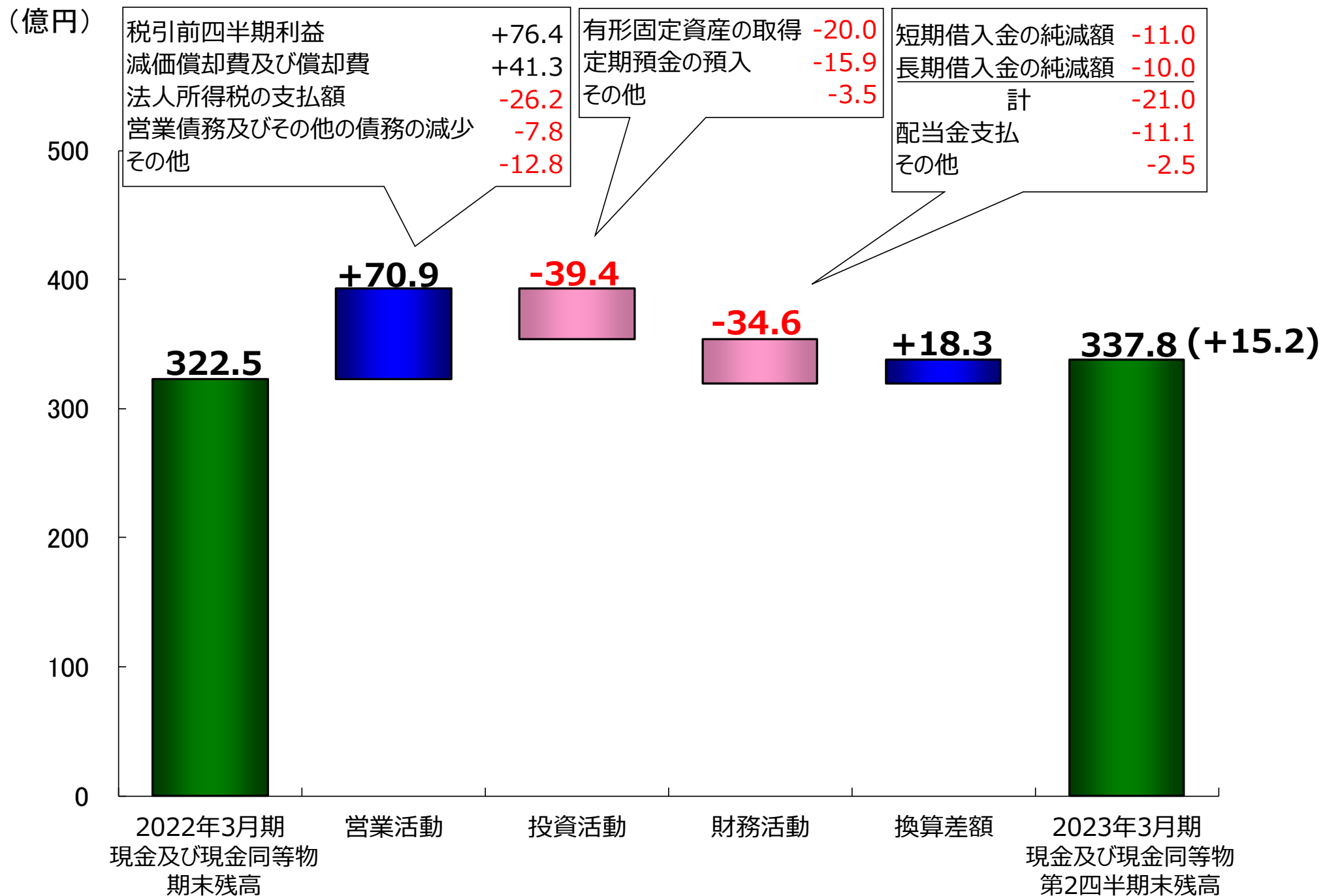
## 【中国】

<b>売上収益</b>	<b>+57</b>
・四輪部品売上増	+15
・為替影響	+42
<b>税引前四半期利益</b>	<b>+12.6</b>
・売上変化及び機種構成差	+3.2
・CD効果等	+1.5
・材料高騰影響等	-1.8
・販管費増減	+1.6
・為替影響	+8.1

## 【アジア】

<b>売上収益</b>	<b>+71</b>
・四輪部品売上増	+6
・二輪部品売上増	+20
・為替影響	+45
<b>税引前四半期利益</b>	<b>+8.8</b>
・売上変化及び機種構成差	+7.8
・材料高騰影響等	-1.7
・販管費増減	-1.0
・金融収支	-0.2
・為替影響	+3.9





	2022年3月期	2023年3月期 第2四半期	増減	コメント
資産合計	1,433億円	1,524億円	+91億円	その他の金融資産 +23億円 営業債権及びその他の債権 +22億円
負債合計	669億円	676億円	+7億円	その他の金融負債 +12億円 営業債務及びその他の債務 +5億円 借入金 -19億円
親会社持分	626億円	704億円	+78億円	包括利益 +81億円 配当金支払 -3億円
非支配持分	138億円	144億円	+6億円	包括利益 +14億円 配当金支払 -8億円
資本合計	764億円	849億円	+85億円	————
負債及び資本合計	1,433億円	1,524億円	+91億円	————
有利子負債残高	179億円	159億円	-20億円	日本 -9億円 米州 -12億円 アジア +2億円
親会社所有者帰属 持分比率	43.7%	46.2%	+2.5pt	————
有利子負債依存度	12.5%	10.5%	-2.0pt	————
1株当たり親会社所有者 帰属持分	2,614円	2,940円	+326円	————

- 
- 2023年3月期 第2四半期 連結決算
  - 2023年3月期 連結業績見通し

	2022年3月期 実績	2023年3月期 見通し	前期比 (増減率)
売上収益	1,642億円	1,800億円	+158億円 (+9.6%)
営業利益 (対売上収益比率)	105.2億円 (6.4%)	100.0億円 (5.6%)	-5.2億円 (-4.9%)
税引前当期利益 (対売上収益比率)	119.1億円 (7.2%)	110.0億円 (6.1%)	-9.1億円 (-7.6%)
親会社の所有者に 帰属する当期利益 (対売上収益比率)	51.5億円 (3.1%)	45.0億円 (2.5%)	-6.5億円 (-12.7%)
為替レート (USDドル)	112円	上期実績 134円 下期計画 130円	上期実績 22円 円安 下期計画 18円 円安

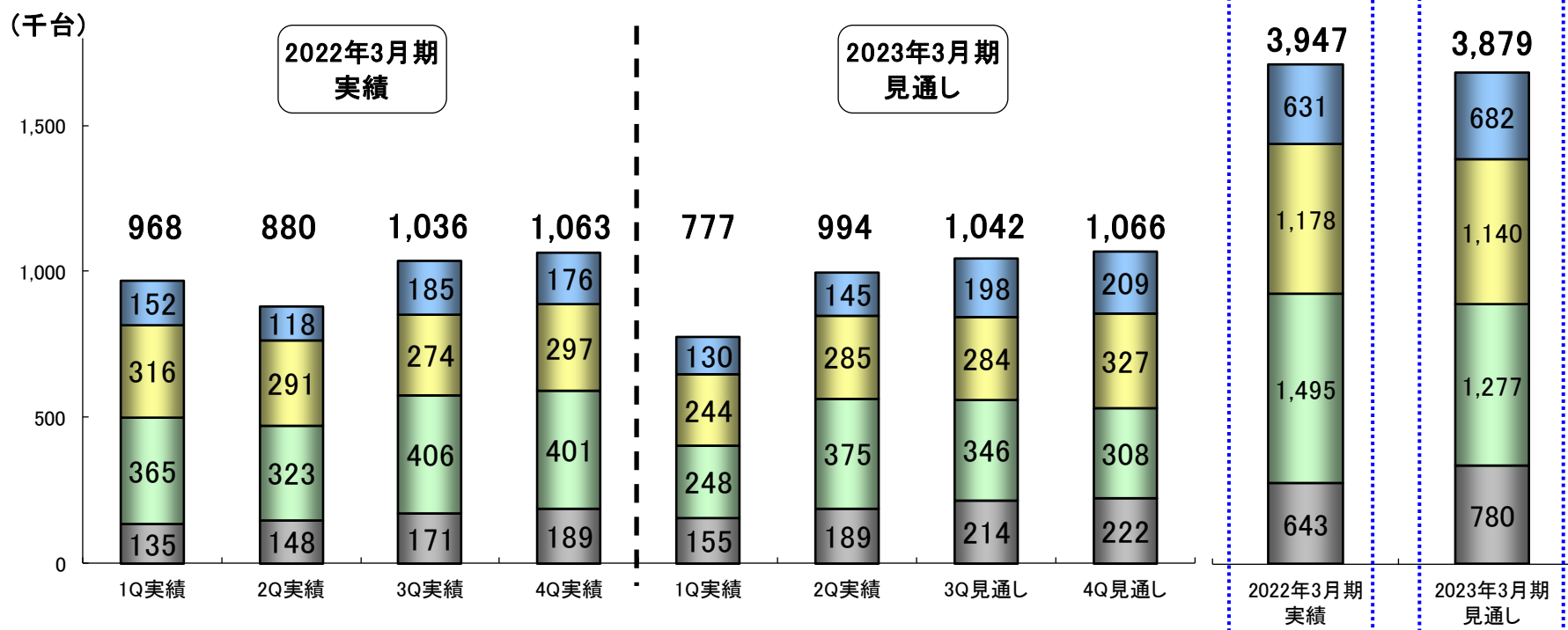
2023年3月期の連結業績予想につきましては、現時点で入手可能な情報に基づき当社の経営者が判断した予想であり、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。実際の業績は様々な要因の変化により、記載の業績予想とは大きく異なる結果となり得ますことをご承知おきください。今後修正の必要性が生じた場合は、適時かつ適切に開示してまいります。

# 2023年3月期 通期見通し(12ヶ月間) 燃料タンク概況

	2022年3月期 実績	2023年3月期 見通し	前期比 (増減率)
出荷台数合計	3,947千台	3,879千台	-68千台 (-1.7%)
日本	631千台	682千台	+51千台 (+8.1%)
米州	1,178千台	1,140千台	-38千台 (-3.2%)
中国	1,495千台	1,277千台	-218千台 (-14.6%)
アジア	643千台	780千台	+137千台 (+21.4%)
売上収益	442億円	464億円	+22億円 (+5.0%)
内、為替影響	-	+21億円	+1億円 (+0.2%)

← 実質的な売上増

■日本 ■米州 ■中国 ■アジア



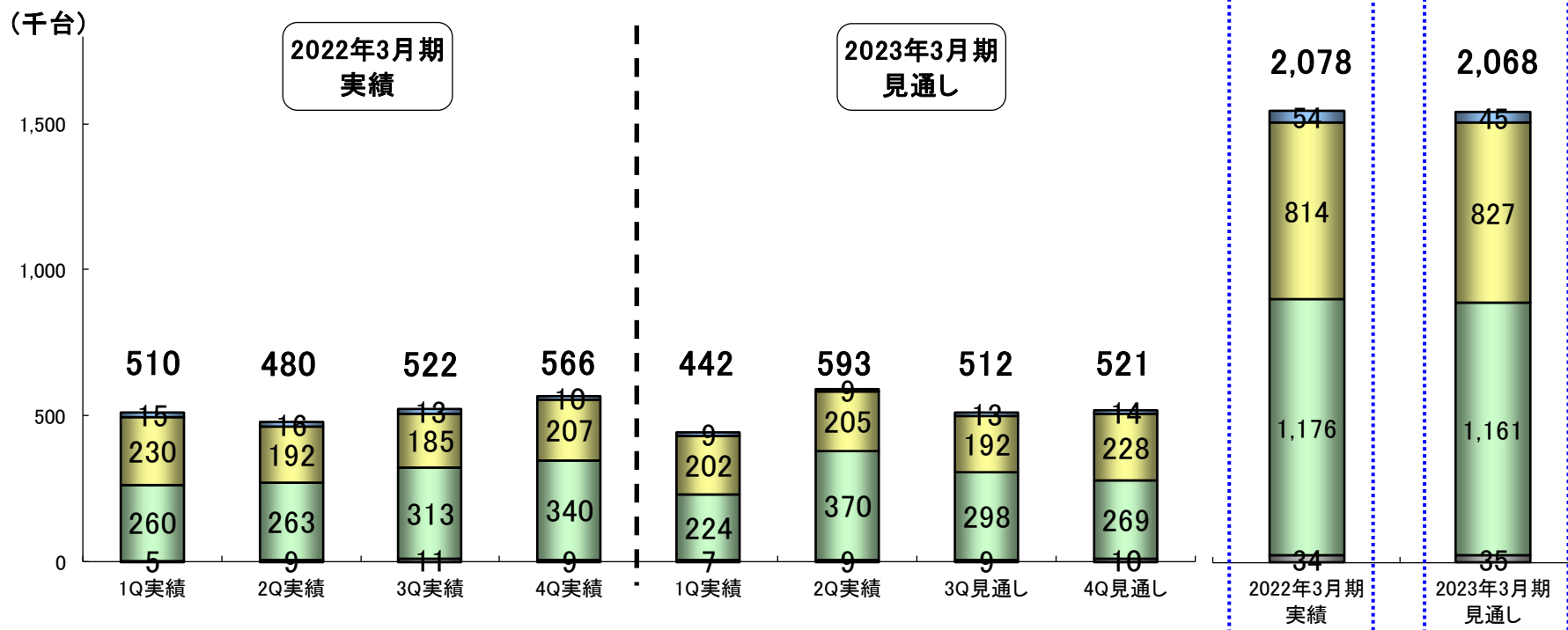


# 2023年3月期 通期見通し(12ヶ月間) サンプル概況

	2022年3月期 実績	2023年3月期 見通し	前期比 (増減率)
出荷台数合計	2,078千台	2,068千台	-10千台 (-0.5%)
日本	54千台	45千台	-9千台 (-15.1%)
米州	814千台	827千台	+13千台 (+1.7%)
中国	1,176千台	1,161千台	-15千台 (-1.3%)
アジア	34千台	35千台	+1千台 (+0.3%)
売上収益	471億円	534億円	+63億円 (+13.4%)
内、為替影響	-	+25億円	+38億円 (+8.1%)

← 実質的な売上増

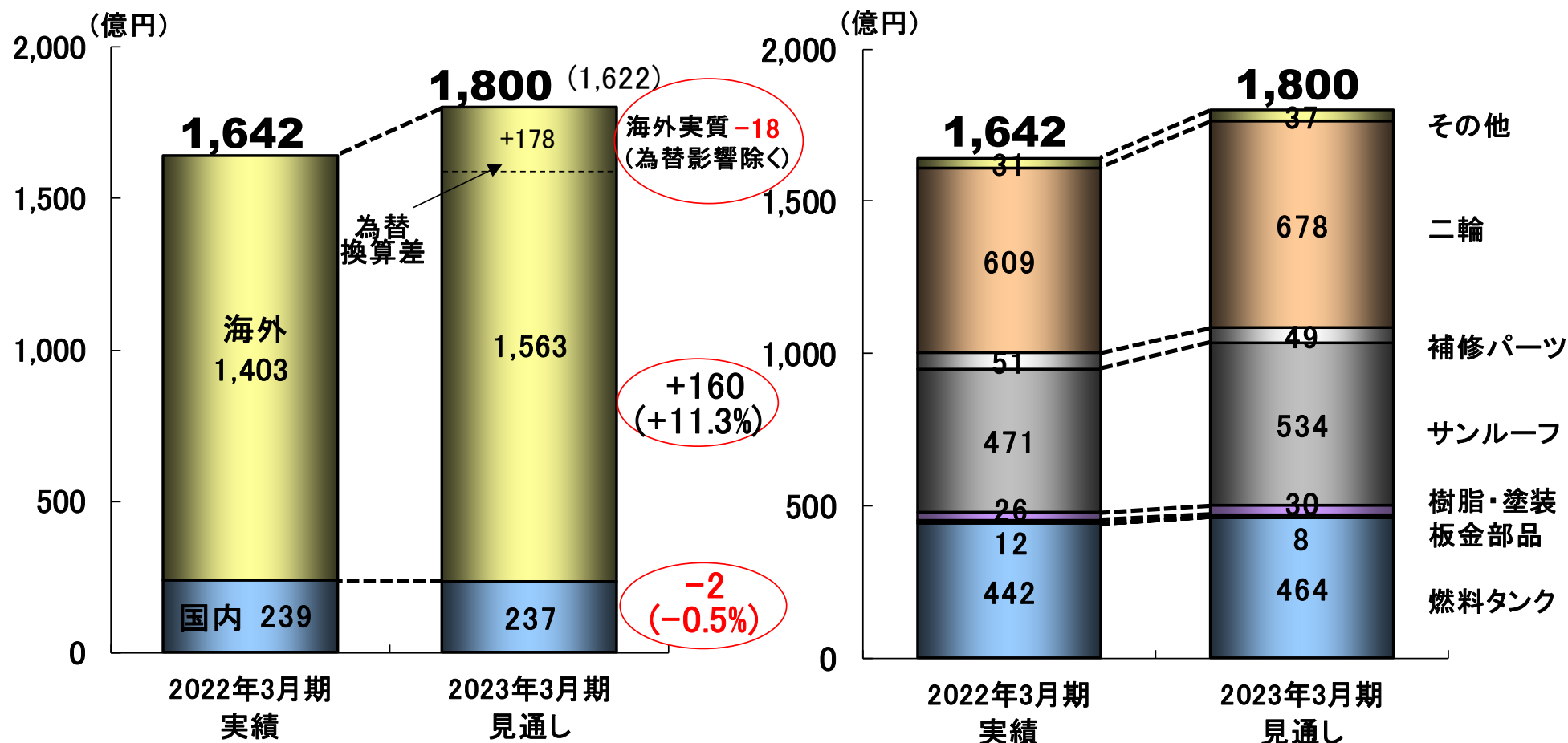
■日本 ■米州 ■中国 ■アジア



	2022年3月期 実績	2023年3月期 見通し	前期比 (増減率)
売上収益	1,642億円	1,800億円	+158億円 (+9.6%)

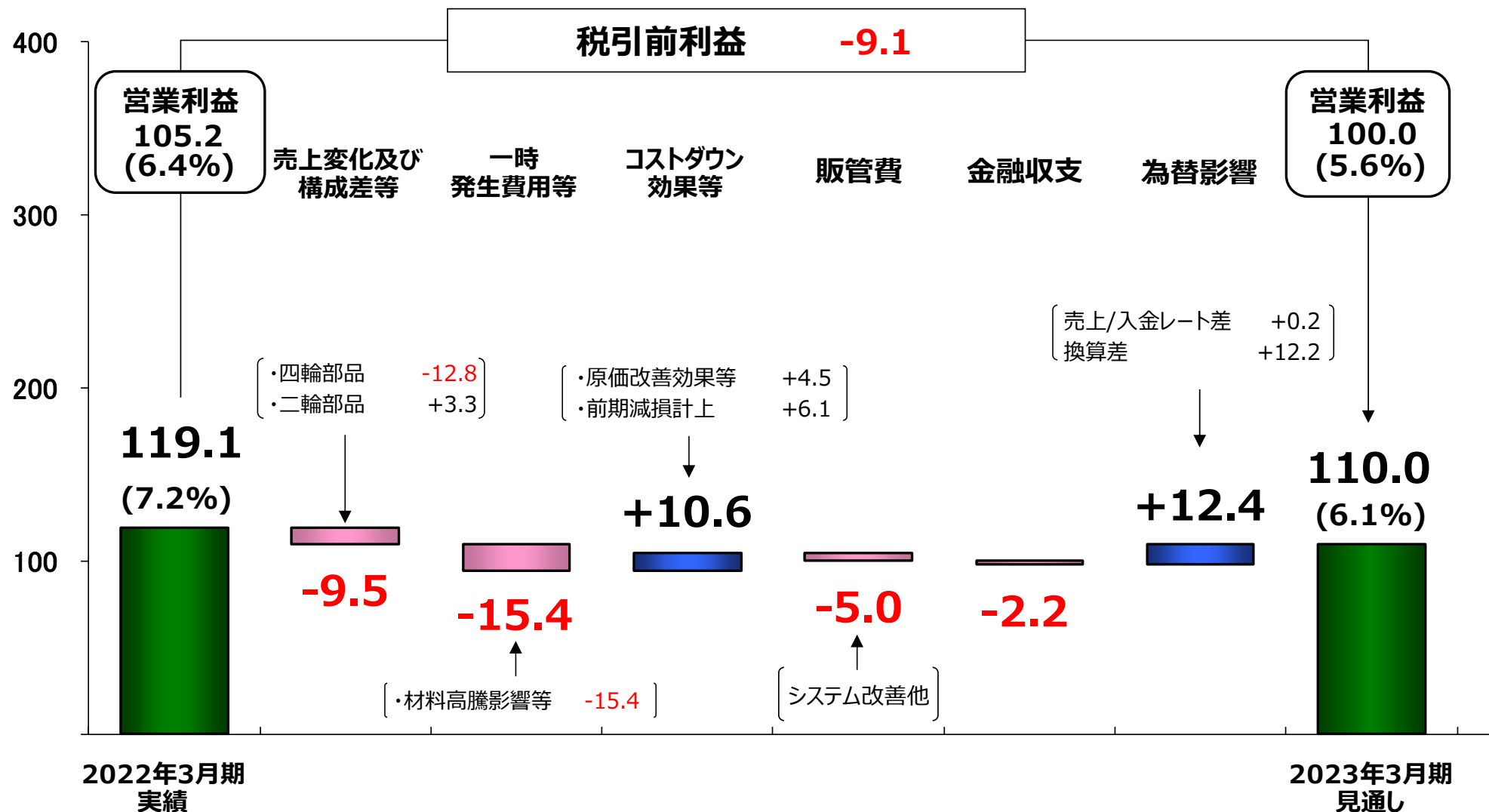
## 国内／海外区分

## 製品別区分

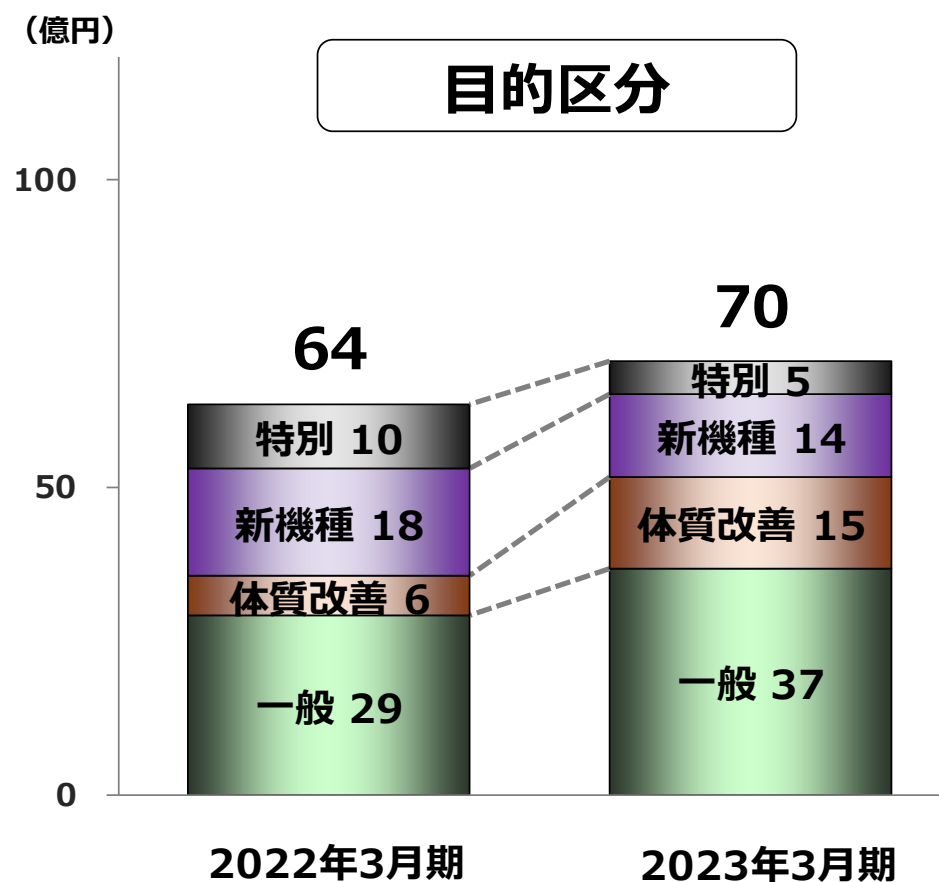
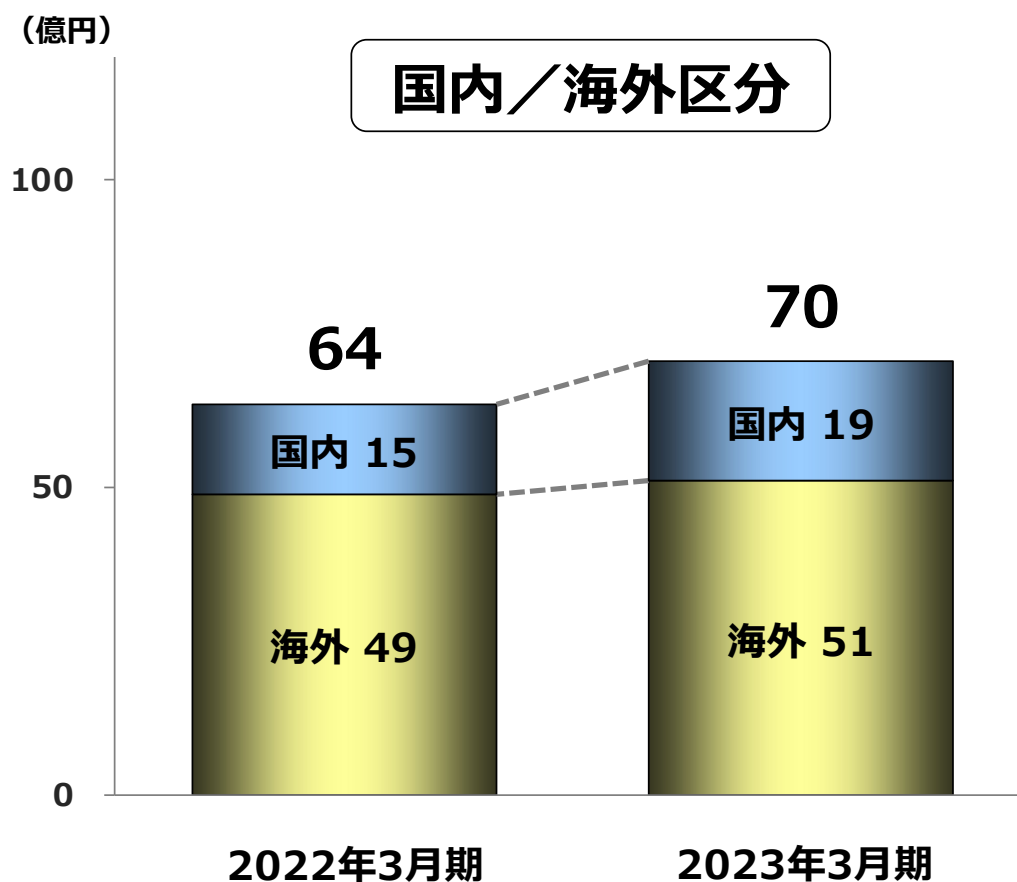


(単位：億円)

売上収益 1,642 増減 **-20** 為替換算影響 **+178** **1,800**



	2022年3月期 実績	2023年3月期 見通し	前期比 (増減率)
設備投資	64億円	70億円	+6億円 (+10.7%)



## 【配当に関する基本方針】

当社の資本政策につきましては、長期的な企業価値の向上を図るため、持続的な事業の成長に向けた設備及び研究開発を含む戦略的な投資を可能とする強固な財務基盤を確保すること、株主の皆様へ安定的な利益還元を実施することを基本としております。

	2022年 3月期	2023年3月期 (予定)		前年度比 (増減)
		期初	今回	
中間配当金	6円	(9円)	17円	+11円
期末配当金	(12円)	(9円)	(17円)	+5円
年間配当金	(18円)	(18円)	(34円)	+16円
連結配当性向	8.4%	18.7%	18.1%	+9.7%

本資料のうち、業績見通し等に記載されている各数値は、現在入手可能な情報による判断及び仮定に基づいて算定しており、判断や仮定に内在する不確定性及び今後の事業運営や内外の状況変化等による変動可能性に照らし、実際の業績等が見通しの数値と大きく異なる可能性があります。尚、上記の不確定性及び変動可能性を有する要素としては、主に以下のものがあります。

- ・主要市場における経済情勢及び需要の変動
- ・為替相場の変動
- ・主要市場における貿易規制等の各種規制
- ・主要市場における政治情勢
- ・当社が事業活動を行う上生じる当社の責めに帰すことのできない様々な障害

## ■ 決算説明

経理部長

初山 武志

## ■ 自己紹介

## ■ 事業の方向性

代表取締役社長

可知 浩幸



かち ひろゆき  
**可知 浩幸**

1963年7月8日生まれ

- 1987年 4月 本田技研工業株式会社 入社
- 2010年10月 同社生産本部鈴鹿製作所組立工場工場長
- 2012年 6月 同社生産本部主任技師
- 2015年 4月 同社執行役員 日本本部四輪生産統括部統括部長
- 2017年 4月 同社IT本部本部長
- 2019年 4月 同社生産本部本部長
- 2020年 4月 同社執行職 アジア・大洋州本部DEB責任者  
アジアホンダモーターカンパニー・リミテッド取締役副社長（兼務）
- 2022年 4月 当社入社
- 2022年 6月 当社代表取締役社長



## ■ 決算説明

経理部長

初山 武志

## ■ 自己紹介

## ■ 事業の方向性

代表取締役社長

可知 浩幸

## Vision 2030

たゆ

ものづくりの弛まぬ進化で  
モビリティのキーカンパニーになる

### 第14次中期 (20-22中期)

#### さらなる成長の基盤づくり


基盤の確保 健全化 風土改革


### 第14次中期

重点施策	2021年3月期	2022年3月期	2023年3月期	達成度
競争力強化・ ものづくり進化	<b>生産体質改革</b> ハード施策：グローバル高位平準化 ソフト施策：徹底した原価改善			・Honda様以外から新規で6件受注 ・樹脂バックドアモジュールを開発
事業基盤の盤石化	日本、米州事業の健全化加速			・原価改善や間接部門の効率化推進 ・量産立ち上げ後のコスト守り切り ・米州は効率改善などにより生産体質が向上
品質保証体質の強化	<b>品質体質強化</b> ：開発領域・量産領域、体質領域			・品質不具合は減少 ・各生産現場において品質体質向上
人と組織の活性化・ 人材強化	<b>企業風土改革</b> 『一致団結』、『自ら挑戦し、進化する集団』への変革			・従業員満足度は課題を把握、 施策推進により満足度向上 ・企業風土改革を推進
企業価値向上に向けた サステナビリティ展開	<b>環境負荷低減活動</b> <b>社会貢献活動</b> <b>カーボンニュートラル</b>			・環境負荷低減施策は計画通り推進 ・カーボンニュートラルは2050年達成に に向けたロードマップの作成を推進

## 販路の拡大


### 塗装部品

 GPX様より二輪向け**17部品を受注**、  
生産量を拡大


 部品メーカー様が塗装技術を高く評価、  
電着塗装部品を受注  
塗装工程の**生産量が約30%増加**




### サンルーフ

 競合メーカーに対し競争力のある製品で  
受注量拡大（Honda様向け）

### サンシェード

 大手完成車メーカー様より**新規受注**  
2024年夏ごろ生産開始予定


### 樹脂製燃料タンク

 マルチ・スズキ様向け  
**2機種目受注**  
2022年7月から生産開始



マルチ・スズキ  
アルト

### 樹脂部品

 **ダイハツ様向けバンパー**  
**3機種目を受注**  
来年末頃から生産開始予定

中期目標の新規受注件数を達成。販路拡大を継続して推進します

## 最大サイズのパノラマサンルーフを北米で生産開始



※当社従来品(Honda CR-V)との比較

生産拠点



ヤチヨ マニュファクチュアリング オブ  
アメリカ エル エル シー  
(ジョージア州)

- ・大きなガラス部から採光によりこれまでにない開放感を実現
- ・室内側は薄型のロールサンシェードを採用し、広い頭上空間を実現



北米で販売される予定の  
Honda PILOT (2023モデル) に搭載

## 生産ラインの効率化 北米においてパノラマサンルーフの需要が拡大

### 従来



### 現在

#### サンルーフ戦略

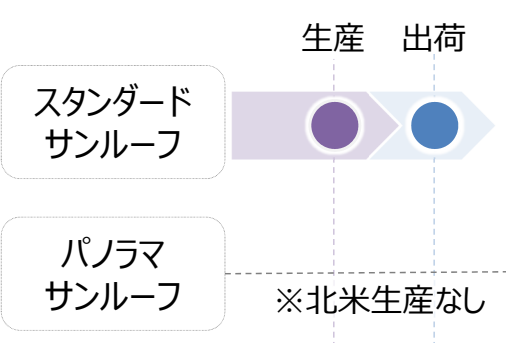
北米において現地生産化

製品ラインナップ充実

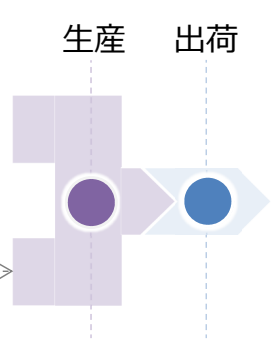
コスト競争力向上

## 生産ラインの効率化

### 従来

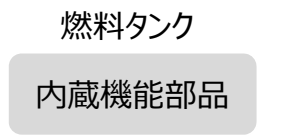


### 現在



## 樹脂部品内製化

### 従来



### 現在



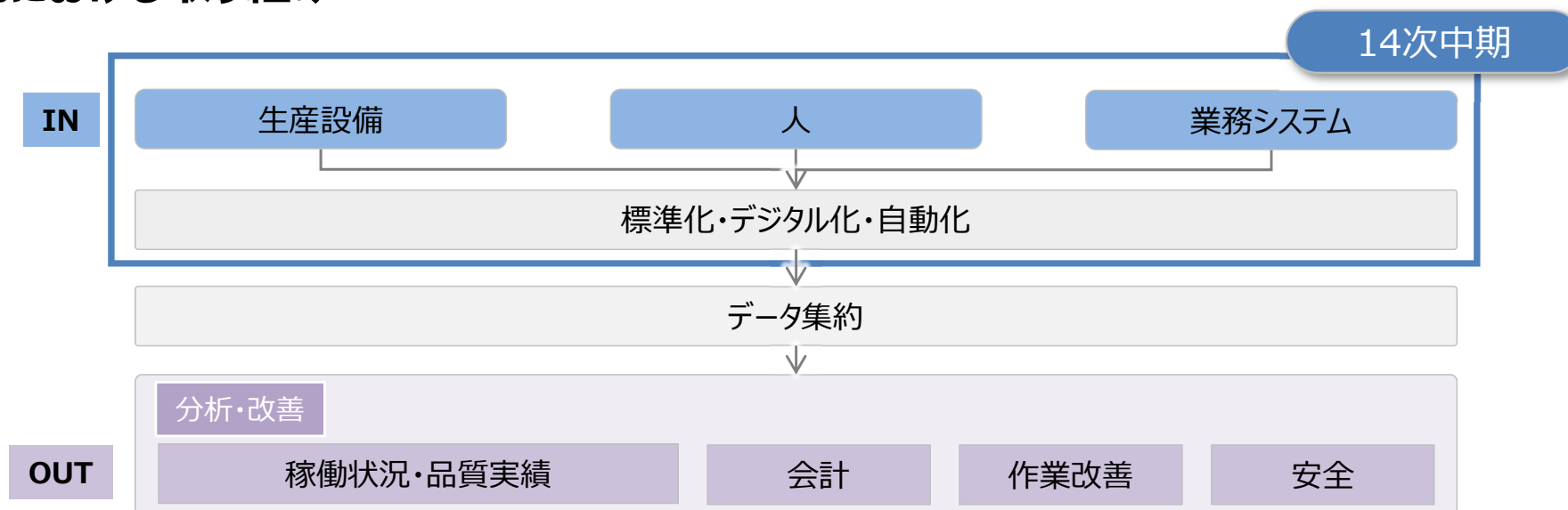
樹脂成形技術・設備を活用し、内製化を拡大。低コスト化を実現



同一ラインでタイプの異なるサンルーフを生産することで体質を大幅に向上

## 業務効率化における取り組み

目指す姿



### 14次中期における取り組み

	標準化	デジタル化	自動化
改善箇所	・入力作業や申請用紙削減 など	・紙記入から電子入力化 など	・システム連携のRPA※化 など ※ ロボットによる業務自動化
事例	【管理領域】 ・規程や制度に踏み込んだ 申請フローの簡素化 ・業務フロー見直しによる ショートプロセス化	【生産領域】 ・現場帳票の電子化による 入力や確認業務等の効率化	【全体】 ・労務、給与など定型的なデータ 集計作業の自動連係化

電子化・自動化などの業務効率化を推進しています

## 企業風土改革

意義

激しく変化する社会に追従し、より一層進化・発展させることが必要

～ 達成すべきこと ～

一致団結への変革

自ら挑戦し進化する集団への変革

### TOPメッセージ発信

決算や事業の方向性を詳細に説明することで直近の状況の理解促進



リモート開催

### アイデアコンテスト

自分で感じ、形にしたい製品を業容の枠を超えて募集



中国地区・日本地区

### 社内技術展示会

組織の枠を超えた意見交換を実施



日本地区

従業員の挑戦する機運を高め、社内から活性化を行う

## より生き活きとした働きがいのある職場づくり

### 基本的な考え方

「夢や希望を抱いてその実現のために思考し創造する存在」である**従業員の成長と絶え間ない努力が組織を向上させ、当社を成長させ続ける原動力であると考えています。**

### 主な取り組み事例

#### ・仕事と子育てが両立できる職場づくり

より取得しやすい環境を目指し  
国の制度とともに社内制度を従業員へ周知



#### 「育児・介護休業法」の改正以降の取り組み

- 育児休職制度の見直し
- 各事業所に育児相談窓口を開設
- 社内コミュニケーションツールを使った周知 など

#### ・障がいの有無にかかわらず誰もが働きやすい職場づくり

#### 各事業所に障がい者生活相談員を配置

#### ・多様な働き方実践企業認定制度

2018年には埼玉県の「多様な働き方実践企業認定制度」の「ゴールド+」に認定

従業員一人ひとりが生き活きと働ける職場づくりを進めています



## 社会貢献活動

目指す姿

企業としての活動を通じて、  
社会からその存在を認められ、期待される企業になる

各国における活動

中国

地元小学校への学用品等の寄付



アメリカ

従業員家族向け工場見学



インドネシア

給水タンク設置やトイレの改修



日本

フードバンク実施



## Honda S660用 フルドライカーボン製リアフードを発売



## 鈴鹿8耐 初出場12位



GOSHI

